

猪苗代湖におけるコハクチョウの営巣

鬼多見 賢

969-3284 耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字三城潟936

2004年の春、福島県西部にある猪苗代湖畔で、北上せずに残留したコハクチョウが営巣した。営巣した場所は、猪苗代町の大字三ツ和字三城潟地番の離れ小島である。

この春には成鳥18羽、幼鳥2羽、計20羽が猪苗代湖に残留した。残留したコハクチョウのうち巣またはその近くにいるつがいについて、4月17、23、28日の状況を報告する。

4月17日。晴れ、気温16℃。4月12日以降他の個体と離れて2羽だけいつも同じ場所から離れない。このつがいの雄は、左翼の初列風切羽を怪我しており、少し飛ぶことができる。雌の右翼は翼角より先の部分が無く、飛べない。

1羽が抱卵状態の姿勢を保っている。近づいて見る。雄と思われる個体が両翼を広げ威嚇姿勢をとり、更に近づこうとすると、攻撃態勢で近寄ってきた。雌と思われる、巣に座っていた個体は両翼を広げ巣を守ろうとする。

巣は、底辺が約1 m、厚さ30 cmであった。巣材は、ヨシ、ヤナギの葉やその他の植物の枯れ葉、茎であり。巣にはペットボトル（半透明）と緑のボール角1個（軟式野球玉大）があった。

4月23日。曇り、気温16℃。これまでと変わり無し。他の個体は環境に応じて対応している。

4月28日。小雨、気温9℃。巣に変化が見られ、底辺が1 m以上に広がっており、巣の厚さ約50 cm程度に巣材がきちんと積み上げられていた。

ペットボトル1個はそのまま、ボールは巣の外に出ていた。ペットボトルを卵と想定して抱卵しているのか、または産卵状態に近づいたので巣を大きくしているのかについては、はっきりしなかった。